

きょうの発言

ここ数年、個人消費の低迷が続いているが、私は、この原因は家庭内の在庫過剰感で説明できるのではないかとひそかに考えている。

もちろん、バブル崩壊後の景気後退による雇用環境

の悪化と所得の伸び悩みが、個人消費の低迷の背景にあるのは周知のことである。また、買いたいと思わせるようなヒット商品が生まれにくくなったという面もある。しかしながら、あえて別の意見を述べるのは、以下のような経験があるからである。

最近、わが家で困るのはモノ

を置く場所が見つからないことである。靴箱に靴を入れようとしたら、洋服掛けにスーツを掛けようとする、決まって家族の持ち物と競合してしまう。狭い車庫には同時に二台の車は入らないし、家電製品もほぼそろった。

家庭内在庫

この状態で新たにモノを買うには、そのモノを置くスペースの確保が前提になる。であれば、個人消費を回復させるには、家庭内に滞留している不良在庫を一掃処分するしかない。そして、その方法はいくつか考えられる。

まずは捨てること。つぎに、

まだ使用できそうなモノは、他人にあげるか、リサイクルすること。中古品として販売してもいいし、世界中で増えている難民を救済するために送ってもいい。アメリカでは、引っ越しをする時など不用品を売るガレージセールが盛んだ。

これらがうまくいけば、資源の節約や環境対策にもなるのだろうが、まだ使えるのにもったいないという意識が邪魔をしているうえに不用品の流通システムがほとんどないというのが現状だ。「粗大ゴミ 毎朝出すのに 夜もどる」と、世の亭主間でゴミ扱いされても困るが、ゴミもまた家庭内在庫の一つ。このゴミですら捨てるという世の中なのだから。

亀井 創太郎 (亀井通産社長)